

| | |
|---------------|--|
| 学校名 | 嬉野市立塩田小学校 |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <p>○校内研究では、語彙に着目し国語科教材と日常の指導を行い成果を上げた。基礎基本の定着はあるが、思考力の落ち込みが見られる。</p> <p>○特別支援教育の体制づくりが整い、外部機関との連携が出来た。一人ひとりにあった支援の仕方の工夫が必要である。</p> <p>○地域連携による体験活動が充実している。ねらいの明確化と行事の精選により、更なる豊かな学びにつなげたい。</p> |
| 2 学校教育目標 | 元気に がんばる 塩田っ子の育成 |
| 3 本年度の重点目標 | <p>○NIEを活用した主体的学習習慣の確立</p> <p>○特別支援教育の推進</p> |

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

| 4 重点取組内容・成果指標 | | | | 主な担当者 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|----------------------|--|--|--|-----------------------------------|------|--|------|--|---------|---|
| (1)共通評価項目 | | | | | 進捗度 | 進捗状況と見通し | 達成度 | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | | | | | | | |
| ●学力の向上 | ●全職員による共通理解と共通実践 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にする。 | ・教職員間でマイプランを共有する場を設定する。 ・めあてに対応した振り返りが書けるよう、プロジェクトで振り返りを書く際の3つのポイントについて提示し、実践を促す。 ・1単位時間内に対話的活動を入れるよう共通理解を図る。 | かしこくプロジェクト ・小手田 ・山口幸 | B | ・夏季休業中の研修の中で、個々の実践を紹介しあうことで、共通理解の上、方策を共有することができた。 ・授業の振り返りの3つのポイント「①今日の学習について ②わかったこと、できたこと ③次の学習への意欲」を児童へ提示し、めあてに対応した振り返りができている児童が増えている。 ・対話活動については、更なる充実を図る必要がある。 | B | ・職員間で学力向上に関する研修(情報交換等)を今後も設定し、職員全体のスキルアップをめざした。 ・どの学年も担任が作成したマイプランの目標が確実に達成できるように、互いに取り組み状況を共有しながら取り組みを進めていった。 ・研究授業等の参観を通して、対話活動の在り方や方法を探った。 | B | ・職員間で情報交換して全体のスキルアップにつなげたり、担任が作成したマイプランの目標達成ができるように状況を共有したりしながら取り組みができた。 ・次年度は、成果指標をクリアした教師の割合や数値目標の設定の根拠を示してほしい。 |
| | ○NIEを活用した校内研究実践の充実 | ○学校評価アンケートにおいて、NIE実践に対する肯定的な回答をした児童を80%以上にする。 | ・全職員が各学年でNIEを取り入れた授業実践を行う。 ・図書室内に新聞閲覧コーナーを設置し、月に1回、図書委員おすすめ記事を掲示する。「読書ノート」に読んだ新聞や本の感想を書かせ、給食時間の放送で月1回、紹介させる。 ・上学年でNIEノートを活用し、定期的に学級内で考えを交流させる。 | かしこくプロジェクト ・富永 ・藤井 ・植松 | B | ・研究実践においては、計画的な実践が推進されている。 ・授業実践の積み上げの中で、課題等内容をしぼりこみながら方策の共有化を図ることで、本校のNIEを取り入れた学習方法の確立、実践力向上につなげていく必要がある。 | A | ・年度後半では、公開授業を行い、本校のNIE教育について外部からの意見やアドバイスをいただいた。 ・全職員が各学年でNIEを取り入れた授業を行い、研究のまとめを作成した。 ・学校評価アンケートにおいて、NIE実践に対する肯定的な回答をした児童は85.5%であった。 | A | ・研究実践において、計画的な実践が推進されたことで「80%」から「85.5%」へ成果が表れたと思う。 ・物事を分析し、自分なりの考えを引き出す力を今後も養っていただきたい。 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ・アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と答える保護者が85%以上をめざす。 | ・年1回以上、道徳の授業を公開する(9月の授業参観で、全学級「ふれあい道徳を実施する。) ・ふれあい道徳の前後に、担任の願いや保護者の感想を、お便りにして保護者や地域に知らせる。 ・人権集会や平和集会の内容を充実させる。 | やさしくプロジェクト ・田代 ・白仁田 | B | ・ふれあい道徳の内容紹介のお便りを作成し、配布する準備が整っている。 | A | ・道徳の授業だけでなく、人権教育や学校生活全般で道徳的意識を高めた。 | A | ・学校生活全般で道徳的意識を高め、思いやり豊かな心を育成することが十分に達成できた。 ・学校だよりの配布や回覧とおして、保護者や地域住民に情報を知らせているのが良い。 ・嬉野高校の生徒による寸劇で、認知症の方の気持ちを考える取組等、様々な学びの場を作っていたのが良い。児童の感想からも意識が高まっているのが分かる。 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員が100%になることをめざす。 | ・支援を要する児童の情報交換を、年5回(4月、5月、学期末、11月、学年末)に行う。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回以上開く。 ・児童の実態を把握し、保護者、SC、教育相談員、関係機関との連携を図る。 | やさしくプロジェクト ・吉村 ・川原 | B | ・アンケートを毎月実施し、児童の相談があれば、担任や他の職員が話を聞いて実態把握や児童理解に努めている。いじめととらえられる条件は上がってきていない。 ・月1回、児童理解のための情報交換会を行うことで、いじめの早期発見につなげている。 | A | ・アンケートの実施ときめ細やかな観察を行った。保護者からの情報収集やきめ細やかな誠意ある対応の結果であると思われる。複数の目録でとらえているのが良い。 ・児童や保護者からの聞き取りアンケートを実施し、その結果や原因、学校の対応、今後の取組を詳細に公開していただいている。保護者としては非常に心強い。 | A | ・情報収集やきめ細やかな誠意ある対応の結果であると思われる。複数の目録でとらえているのが良い。 ・児童や保護者からの聞き取りアンケートを実施し、その結果や原因、学校の対応、今後の取組を詳細に公開していただいている。保護者としては非常に心強い。 |
| ●健康・体づくり | ○あいさつ・返事の励行 | ・アンケートで「あいさつ・返事ができている」と答える児童・保護者が共に85%以上になることをめざす。 | ・「あいさつ・返事」を年間を通した生活目標とする。 ・あいさつや返事の仕方(声の大きさや態度など)について具体的に指導するとともに、日頃から地域の人への積極的なあいさつを呼びかける。 ・あいさつ・返事名人をほめる。 | やさしくプロジェクト ・有森 | B | ・学校や地域で気持ちのよいあいさつができるように、継続して声をかけた。 | B | ・登校班長を中心に、あいさつの意識を高めるように声かけ指導を行った。校内でのあいさつはできているが、地域の人への積極的なあいさつはできていない。 ・立ち止まってあいさつができるように、ビデオに録音して見せる等して児童に意識付けをした。 | A | ・今後も校内だけでなく、地域の人へも気持ちの良い挨拶ができるよう、継続した取り組みが必要である。 ・「立ち止まってあいさつ」は、見栄えをよくするために行われたのでは意味がない。やるのであれば、教師が率先して実行し、児童とその意味を共有すべきである。 ・あいさつや返事については、学校の指導だけでは難しい。保護者に対しても働きかけを行うべき。 |
| | ●望ましい生活習慣の形成 | ○学校評価アンケートで、「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できていると答える児童・保護者をともに80%以上にする。 ○学校評価アンケートで、「手洗い・うがい・歯磨き」ができていると答える児童・保護者をともに90%以上にする。 | ・8月と1月の年2回、生活がんばりカードで「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」をチェックする。 ・保健だよりで「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を呼びかける。 ・養護教諭と連携し、生活習慣に関する保健指導を各教室で行う。 | たくましくプロジェクト ・山口恵 ・宮崎 ・小園 | B | ・8月の生活がんばりカードで、「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を呼びかけ、各学年チェックすることができた。 ・保健だよりで「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を呼びかけることができた。 ・養護教諭と連携し、生活習慣に関する保健指導や歯磨き指導を各教室で行うことができた。 ・給食指導に副担任や級外が入り、指導を組織的に行った。 | A | ・年2回の生活がんばりカードで、「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」のチェックをし、指導が必要な児童を把握することができた。 ・養護教諭が全学年に入り授業を行ったことで、保健指導を徹底することができた。 ・給食指導に副担任や級外が入り、きめ細やかな指導ができた。 ・給食コーナーには朝ごはんや健康に関連した掲示物で情報発信を行った。 | A | ・重要な生活習慣を、全職員で、きめ細やかな指導で身につけさせることができ、良かった。 ・生活がんばりカードのおかげで、親も規則正しい生活習慣を意識することができた。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ◎志を高める体験活動の充実 | ○学校評価アンケートで、生活科・総合的な学習の時間や学校行事を通して、地域の良さを見つけることができたという児童を80%以上にする。 ○学校評価アンケートで、学校は体験活動の充実にも努めていると答えた保護者を80%以上にする。 | ・生活科や総合的な学習において児童の興味・関心を生かした体験活動や表現活動を多く取り入れる。 ・各学年で、外部や地域ボランティアと連携した学習活動を年間2回以上行う。 | たくましくプロジェクト ・倉富 ・安田 | B | ・地域連携による教育活動の体制づくりは充実しているが、コロナ対策の中、限られた時間の中で無理のない運用に加え、家庭、保護者を巻き込んだ体験や教育活動を展開し、児童の豊かな学び、安心できる教育環境づくりを進めている。 | A | ・体験活動で学んだことを発信したり、地域コミュニティを中心とした外部講師と連携した活動に計画的に取り組んだ。 ・今後も引き続き地域コミュニティとの連携を密にし、児童の自己有用感を育めるような体験活動を計画的に実施し、内容を充実させていきたい。 ・コロナ禍の中で、99.2%のアンケート結果が出ているのは良い。 ・学校評価アンケートで、学校は体験活動の充実にも努めていると答えた保護者はよくあてはまると大体当てはまるを合わせて、99.2%であった。 | A | ・地域コミュニティと連携した体験活動の充実にも努められ、100%に近い数字でアンケートで評価されたことは良い。 ・コロナ禍の中で、99.2%のアンケート結果が出ているのは良い。 ・自分が住む地域のことを調べたり、コミュニティの方などから学んだり、郷土愛を育んだり、地域の課題を考える良い活動ができています。 |
| | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限(週当たり45時間以内)を遵守する。 | ・プロジェクト機能を活かし、仕事を効率よく分担し協働する。 ・定時退勤推進日には、全職員18時までには退勤する。 | ・校長 ・教頭 | B | ・朝の交通当番をPTAに任せ、教室で児童を迎え指導をすることが出来るようになった。 ・職員の退勤時刻は、昨年度、学校施設が19時過ぎることが多かったが、本年度はその数が減少している。 | B | ・時間外勤務時間が、昨年度比で9パーセント減少した。いつでもいい時間に働ける仕事ばかりにするのではなく、取捨選択することができつつある。 ・校時表の工夫等しながら、放課後の作業時間確保を推進する必要がある。 | A | ・朝の交通当番をPTAの協力により役割分担することで、朝の時間、教師の児童に対する指導時間が確保できるようになったのは良い。 ・時間外勤務も、様々な工夫により減少傾向にあり、規定内におさまっている。 ・教師自身の仕事に対する時間配分を洗い出し、無駄を検証することも必要ではないか。行事の精選をしても良い。 ・以前より教員の数が減少しているのに、業務内容が多様化しているため、この取組自体難しい面があるのではないかと。 |
| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 主な担当者 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
| 評価項目 | 重点取組 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | | 進捗度 | 進捗状況と見通し | 達成度 | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ○特別支援教育の充実 | 特別支援教育の支援体制の構築 | ・アンケートで「困り感を持つ児童に対して、きめ細やかな指導・支援を行うことができている」と答える職員が85%以上になることをめざす。 | ・支援を要する児童の情報交換を、年5回(4月、5月、学期末、11月、学年末)に行う。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回以上開く。 ・児童の実態を把握し、保護者、SC、教育相談員、関係機関との連携を図る。 | ・小園 ・白仁田 | A | ・特別な支援を要する児童の担任が校内の職員と協力し、保護者との連携もとり、校内での学習環境を整えることができた。SC、教育相談員、巡回相談員や医療機関との連携が図られた結果である。 ・通常学級で困り感を持つ児童の指導支援のあり方をさらに研修し、教師間の考え方にズレが生じないようにしたい。 | A | ・月1回の情報交換会資料を整理して効率的に行った。 ・必要に応じて、随時ケース会議を開いたり、巡回相談等専門機関との連携を深めた。 ・sswに協力をお願いし、保護者の困り感に寄り添ってもらうことで、医療機関につなげることができた。 | A | ・他校の保護者から「塩田小は支援学級が特性に応じて分けられているので羨ましい」という声を聞く。専門的知識も必要なので、今後も関係機関と連携を取り合って、その子の特性に寄り添った対応をお願いしたい。 ・月1回の情報交換会で、資料を整理して効率的に行い、ケース会議や専門機関との連携で指導・支援ができたと思われる。 ・職員研修と児童への人権意識を育成する機会を設けていただきたい。 |